

ステップ2の総括について

平成27年8月21日
沖縄県

本資料の位置づけ

ステップ2では、

- 現状及び課題の共有
- 将来のあるべき姿の共有
- 評価項目の設定

について県民や関係機関、市町村等とのコミュニケーションを図りながら計画の検討を進めてきました。

本資料は、県民の皆様からいただいたご意見を踏まえ整理したステップ2の総括となります。

I ステップ2の総括

1. 陸上交通の現状及び課題

公共交通の利便性や交通渋滞などが課題となっていること、そのために公共交通の利用促進に向けた取組が必要であることについて、県民も認識しており、一定の情報共有が図られた。

2. 将来あるべき姿の共有、対策の必要性の確認

ステップ2で示した将来の姿及び将来の姿の実現に向けた対策イメージ（短中期的、長期的取組）については、県民から期待する意見が寄せられた他、現在進めている計画検討について根本的に否定する意見はなかったことから、将来の姿の実現に向けて何らかの対策を講じることは必要であり、計画検討を引き続き進めていくことについては理解が得られたものとする。

なお、対策の具体については、ステップ3以降において検討がなされるものであり、具体の対策の必要性については、今後、対策による効果や影響等を踏まえながら検討される。

3. 評価項目の設定

将来像実現に向けた課題解決に必要な6つの視点（県土の均衡ある発展、高齢者を含めた県民及び観光客の移動利便性の向上、中南部都市圏の交通渋滞緩和、世界水準の観光リゾート地の形成、駐留軍用地跡地の活性化、低炭素社会の実現）、事業性を評価するために必要な6つの視点（費用便益分析、採算性分析、施工性、事業の実施環境の評価、経済性、環境への影響）に基づく、幅広い視点での評価が求められた他、新たに3項目（他交通事業者への影響、フィーダー交通ネットワークを含めた視点、耐災害性）が追加された。

（参考資料7参照）

4. コミュニケーション活動

わかりやすい情報の提供など、改善すべき課題はあるものの、今回行ったコミュニケーション活動については、情報の提供方法及び内容、対話、対応について適切に実施され、ステップ2の検討内容について、県民等との情報共有が図られたと考える。

5. ステップ2終了にあたっての留意事項

- 1) ステップ3以降の検討を進めるにあたり、公共交通利用転換に向けた県民の意識改革、公共交通を利用しやすいまちづくり等、将来の姿の実現に必要な対策の実施にあたっては、県民や市町村に求められる取組や生活・自然環境への影響、事業費の確保等懸念される様々な影響について、県民や市町村と情報共有を図る必要があることから、今後実施するP Iと併せて情報提供し、県民から幅広く意見を求めるものとする。
- 2) 将来の姿及びその実現に必要な対策については、具体的な沖縄の将来の姿が見えないとする意見があることから、今後の対策案検討にあたっては、これら具体のイメージを県民と共有して理解を得ていくことが重要である。
そのためステップ3以降において、将来の姿の具体的なイメージを、沖縄の可能性として様々な観点から想定し、県民へ情報提供し幅広く意見を求める。

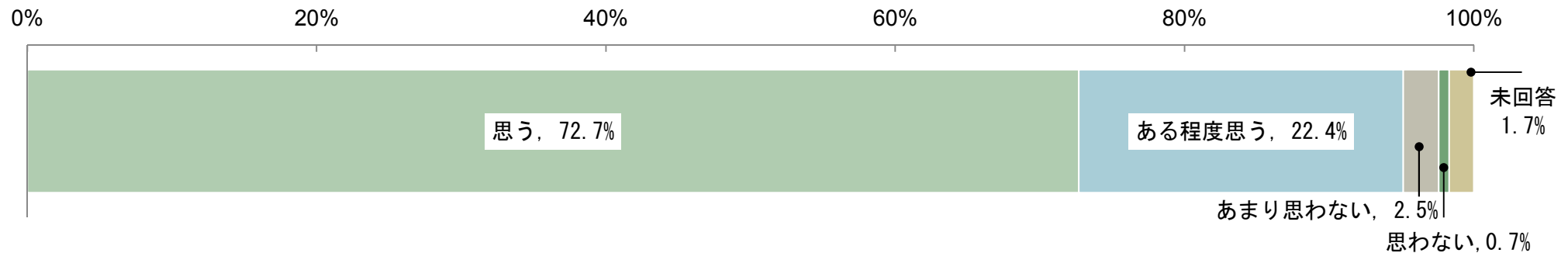
II 県民意見のとりまとめ（整理）

1 現状・課題について

陸上交通の現状について、便数や運行時間、定時性、交通手段間の乗り継ぎの悪さ等公共交通の利便性、車利用などによる交通渋滞などが課題としてあげられており、利便性向上等公共交通の利用促進に向けた取組が求められている。

また、ニューズレター等によるアンケートにおいて、約95%の方が陸上交通の現状の改善を求めている。

【問】陸上交通の現状を改善すべきと思いますか？



2 将来像・対策について

将来像及び対策については、

- ・ 沖縄全体が一つの都市圏となり、それぞれの地域が活性化し都市の一極集中からの人口の分散化が図られることによる経済や観光等の発展
- ・ 移動利便性向上に伴う通勤・通学圏の拡大、交通弱者等の移動手段の確保、観光客の移動圏域拡大
- ・ 渋滞緩和
- ・ 交通事故、飲酒運転の減少、健康増進、県民生活の向上
- ・ まちづくりによる駅周辺の活性化
- ・ CO2削減による環境改善

などの観点から期待されている一方で、

- ・人口減少社会により交通渋滞は緩和されるため、鉄軌道は必要ない
- ・鉄軌道の必要性がわからない
- ・具体的な沖縄の将来の姿が見えない

とする意見等も寄せられた。

また、鉄軌道等対策の実施と併せて、

- ・車依存型社会からの脱却を図るための県民の意識改革
- ・公共交通利用転換への取組の推進
- ・駅周辺の道路や歩道、駐車場等の公共交通を利用しやすいまちづくり
- ・乗り継ぎがしやすく隅々まで行き届いた交通サービスの充実

が求められた他、対策実施に伴う

- ・騒音等生活環境、自然環境への影響
- ・財政負担への影響

等について懸念する意見も寄せられた。

3 評価項目について

将来像実現に向けた課題解決に必要な6つの視点、事業性を評価するために必要な6つの視点に基づく、幅広い視点での評価が求められた他、新たに4つの項目の追加を求める意見が寄せられた。

4 ステップ3以降の計画内容について

起終点やルート、システム等、ステップ3以降の検討事項に対して、個別の地域等への整備、個別システムの導入等を求める意見が寄せられた。

5 プロセスの進め方について

透明性、客観性等を確保しながら、慎重にかつスピード感を持って、幅広く視点で検討すること。また、わかりやすい情報提供に努めながら、広く市町村や県民との対話を通じて、県民の多様な意見把握を行いながら検討を進めていくことが求められている。

Ⅲ 県民意見の概要

1 現状・課題の共有

1-1 陸上交通の課題について

便数・運行時間・定時性・経路・料金などバス等の利便性や交通手段間の乗り継ぎの悪さ、車利用による交通渋滞、健康、飲酒問題等が課題となっています。

- ・バス停上屋、便数や運行時間、定時性等バス等の利便性に課題がある。(88件)
- ・現在の公共交通の利用料金が高額である。(51件)
- ・現状はクルマ以外の選択肢が無く、車利用による交通渋滞、健康、飲酒問題等が課題。(12件)(県民会議意見)
- ・交通手段間の乗り継ぎが悪く高齢者、観光の観点から課題。(4件)(県民会議意見) . . . 等

1-2 公共交通の利用促進について

駐車場整備やバスとモノレールとの連携等による乗り継ぎの利便性向上、運賃の低料金化等、公共交通の利用促進に向けた取り組みが求められています。

- ・現況のバスの使い勝手が良くなるように、路線の再編と運行時間や乗り換えがわかりやすいシステムづくりをしてほしい。(74件)
- ・ICカードについて、SUICAとの相互利用等、利便性を向上してほしい。(50件)
- ・中短期の取組としてバス網整備とモノレールとの連携を実施してほしい。(16件)
- ・高齢者などに対する割引運賃やバスとの乗継割引制度の導入など公共交通の低料金化を図ってほしい。(26件)
- ・路線バスの無料化を図るなど、既存の公共交通利用の活性化に取り組んだ後、鉄軌道を導入すべきだ。(8件) 等

2 将来像及び対策について

2-1 地域の活性化に向けて

沖縄県全体が一つの都市圏となり、それぞれの地域が活性化し、都市の一極集中から人口分散化が図られ、経済や観光等の発展に繋がることが期待されています。その一方で、中南部と北部を一時間で結ぶことによりストロー効果による影響を懸念する意見もあります。

- ・ 沖縄全体が一つの都市圏となり、経済や観光の発展につながることを期待する意見。(84件)
- ・ 都市の一極集中から人口分散につながることを期待する意見。(14件)
- ・ 将来の姿を実現すると観光振興が期待できる。(94件)
- ・ 北部の人口増加や観光客増加など地域の発展を期待する意見。(79件)
- ・ 中南部の活性化(20件)、東海岸の活性化(17件)、離島住民も利用しやすい計画を求める意見。(8件)
- ・ 中南部と北部を一時間で結ぶことにより、ストロー効果による影響が懸念される。
(14件)(県民会議・市町村会議意見) . . . 等

2-2 移動利便性向上に向けて

移動時間の短縮及び定時性の確保、移動手段の選択肢拡大等利便性向上に伴う、通勤・通学圏の拡大、交通弱者等の移動手段の確保、観光客の移動圏域拡大が期待されています。また、一方で、あまり速さにこだわる必要はないとする意見もあります。

- ・ 移動時間の短縮、定時性の確保等利便性の向上を期待する意見。(181件)
- ・ 北部と中南部間の移動時間の短縮等による利便性向上を期待する意見。(148件)
- ・ 移動の選択肢が増えることを期待する意見。(84件)
- ・ 時間短縮による通勤・通学圏域の拡大等、通勤・通学の利便性向上を期待する。(51件)
- ・ 高齢社会に向け、高齢者等の交通弱者、自動車を持っていない人などの移動利便性の向上が期待できる。(135件)
- ・ 観光客の移動圏域拡大等、移動利便性向上を期待する意見。(64件)
- ・ あまり速さにこだわる必要は無い。(13件)(関係機関等意見交換会) . . . 等

2-3 渋滞緩和に向けて

早期の渋滞解消を求め中、鉄軌道導入による渋滞緩和が期待されています。その一方で、人口減少社会への移行に伴う渋滞解消が見込まれるため、鉄軌道は必要無いとする意見もあります。

- ・鉄軌道の導入で渋滞緩和が期待できる。(203件)
- ・早期の渋滞解消を求める意見。(47件)
- ・鉄軌道では渋滞解消できない。(9件)
- ・道路整備だけでは渋滞は解消できない。(5件)
- ・人口減少社会への移行に伴い、渋滞の解消、鉄軌道利用者の減が見込まれるため鉄軌道は必要無い。
(5件) . . . 等

2-4 県民生活向上に向けて

交通事故、飲酒運転の減少、健康増進、県民生活の向上等が期待されております。また、併せて将来像の実現にあたっては、車依存型社会から脱却するため、県民の意識改革、車の乗り入れ規制等公共交通利用促進のための取組が求められております。

- ・交通事故、飲酒運転の減少を期待する意見。(44件)
- ・踏切設置に伴う事故を懸念する意見。(3件)
- ・公共交通を利用し、歩く習慣がつくことによる健康増進や長寿を期待する意見。(37件)
- ・鉄軌道を利用することで、車の購入・維持費や生活費などの大きな経済的負担が軽減されることを期待する意見。(24件)
- ・運賃をできるだけ安く抑えてほしい。(52件)
- ・県民生活の向上を期待する意見。(36件)
- ・車依存型社会から脱却し公共交通利用転換を図るためには、県民の意識改革が必要とする意見。(225件)
- ・車依存型社会からの脱却が必要とする意見。(73件)
- ・車の乗り入れ規制や公共交通利用促進のための取組により車依存型社会からの脱却を図ろうとする意見。
(32件) . . . 等

2-5 駅周辺を含めたまちづくりを

鉄軌道の整備による駅周辺の活性化が期待されており、鉄軌道と併せて駅周辺の道路や歩道、駐車場等の整備やショッピングセンター等の設備の充実を図ることが求められています。

- ・鉄軌道の整備により駅周辺の活性化が期待できる。(19件)
- ・鉄軌道をつくるだけでなく、駅周辺の道路や歩道、駐車場、駐輪場等の整備なども行い、駅を中心に快適に利用できるようにしてほしい。(70件)
- ・駅周辺は、ショッピングセンターなどの設備を充実させてほしい。(11件)
- ・駐留軍用地跡地を活用した鉄軌道整備を求める意見。(25件) . . . 等

2-6 フィーダー交通ネットワークの充実を

既存交通との連携を図り、乗り継ぎがしやすく隅々まで行き届いた交通サービスが求められています。

- ・既存交通との連携を図り、乗り継ぎがしやすく隅々まで行き届いた交通サービスを求める意見。(213件)(県民会議意見)
- ・駅までの距離が遠いと利用しないのではないかという意見。(19件)
- ・LRT等の整備により既存の市街地の活性化も期待できる。(1件)(関係機関等意見交換会意見) . . . 等

2-7 自動車の利便性確保について

鉄軌道だけでなく、道路整備など自動車の利便性の確保が求められています。

- ・鉄軌道が導入されても、自家用車やレンタカーを使う人は多く、車社会は変わらないと思う。(62件)
- ・鉄軌道ではなく、道路整備を求める意見。(13件)
- ・自動車の利便性も確保してほしい。(11件)
- ・自動車業界等への影響を懸念する意見。(2件) . . . 等

2-8 環境に配慮して

CO2削減などによる環境改善を期待する一方で、騒音等生活環境や整備による自然環境への影響を懸念する意見が寄せられました。

- ・自動車利用が減ることにより、排気ガスやCO2排出量の削減が図られ、環境の改善が期待できる。(77件)
- ・騒音等生活環境の悪化を懸念する意見。(11件)
- ・整備に伴う自然環境への影響を懸念する意見。(20件)

2-9 県財政に無理がないように

県財政の大きな負担、税負担が増えることがないようにすることが求められています。

- ・県財政に負担にならないか、税負担が増えないか心配だ。(27件)
- ・税金のムダ。(13件)
- ・国の予算で導入してほしい。(31件)
- ・国へ要望するのではなく、事業費は沖縄県民が負担すべき。(3件) . . . 等

2-10 その他

将来の姿の実現に向けた対策について、賛否のみの意見を除き、計画的、段階的に進めることは良いとする意見がある一方で、鉄軌道の必要性がわからない、具体的な沖縄の将来の姿が見えない、対策は必要無い、鉄軌道等以外の対策で課題は解消できるとする意見等が寄せられました。

- ・将来の姿の実現に向けた対策を計画的、段階的に進めることはいいことだとする意見。(42件)
- ・鉄軌道の必要性がわからない。(25件)
- ・具体的な沖縄の将来の姿が見えない。(8件)
- ・将来の姿について、実現性があるのか疑問である。(26件)
- ・将来の姿の実現に向けた対策に対し、効果を疑問視したり、施策の前倒し等を求める意見。(36件)
- ・将来の姿の実現に向けた対策は必要無いとする意見。(18件)
- ・公共交通の利便性向上等、鉄軌道以外の対策で問題は解決できるのではないかと。(24件) . . . 等

3 評価項目について

3-1 将来像に照らした評価項目

将来像実現に向けた課題解決に必要な6つの視点が、評価項目として求められています。

3-1-1 県土の均衡ある発展

- ・ 沖縄の経済・観光の振興の視点が重要。(134件)
- ・ 均衡ある発展、地域の活性化、地域間交流という視点が重要。(157件)
- ・ 人口増加や定住化促進、観光客増加等による北部の振興という視点が重要。(46件)
- ・ 通勤・通学圏の拡大等、北部振興の視点が重要。(15件) . . . 等

3-1-2 観光リゾート地の形成

- ・ 移動時間短縮による移動圏域の拡大、移動手段の選択肢拡大等観光客の移動利便性の視点が重要。(116件)

3-1-3 高齢者を含めた県民及び観光客の移動利便性の向上

- ・ 子供、高齢者等の視点、及び利用しやすい環境づくりが重要。(167件)
- ・ 移動時間短縮、移動の快適性等が重要。(100件)
- ・ 交通事故の減少など、安全・安心の視点が重要。(85件)
- ・ 県民及び観光客等、利用者の視点を重視すべき。(54件)
- ・ 通勤・通学圏拡大の視点が重要。(50件)
- ・ 定時性が重要。(46件)
- ・ 公共交通利用転換による健康増進の視点が重要。(30件)

3-1-4 中南部都市圏の交通渋滞の緩和

- ・ 渋滞緩和が重要。(241件)
- ・ 渋滞緩和や時短による経済効率が向上するかが重要。(12件)

3-1-5 まちづくり

- ・ 市街地形成、駐車場整備など駅周辺のまちづくりの視点が重要。(90件)
- ・ 自動車による鉄軌道までのアクセスとして、駐車場整備の検討は必要。(2件)(市町村会議意見)
- ・ 跡地の活用を重視すべき。(3件)

3-1-6 低炭素社会の実現

- ・ 地球環境に配慮した視点が重要だ。(155件)

3-2 鉄軌道の事業性を評価する項目

費用対効果や自然環境への影響等、事業性を評価するために必要な5つの視点が、評価項目として求められています。

3-2-1 費用対効果

- ・ 費用対効果(利用者数等)の視点が重要。(131件)

3-2-2 採算性分析

- ・鉄軌道が赤字にならず、事業の継続性が重要という意見。(164件)
- ・運営主体の採算性が課題。(7件)(市町村会議意見)
- ・赤字経営や過疎化の加速など、採算が取れなかった場合の対応をあらかじめ想定しておく必要がある。(7件)
- ・利用料金が重要。(139件)

3-2-3 経済性

- ・事業費の視点が必要。(46件)
- ・事業費の捻出が必要だ。(44件)
- ・出来るだけ事業費を抑えてほしい。(29件)

3-2-4 施工性

- ・土地取得に時間がかかり、事業期間が長くなることが心配。(20件)
- ・早期実現を望む。(21件)
- ・工事に伴う自動車交通への影響が懸念される。(5件)

3-2-5 生活・自然環境への影響

- ・自然環境への影響が心配、最大限配慮してほしい。(136件)
- ・自然とのバランスを考えた沖縄らしい計画にしてほしい。(56件)
- ・自然保護を第一に考えてほしい。(28件)
- ・導入後まちづくりが進んだ後、長期的な視点の影響を考慮すべき。(11件)
- ・沖縄らしい街並みなど景色を楽しめるルートが重要。(13件)
- ・騒音に関する視点が必要だ。(21件)

3-3 その他新たな視点

【貨物】

- ・流通面の視点が重要。(7件)

【交通事業者への影響】

- ・既存交通事業者への配慮が必要だと思う。(59件)

【自然災害への対応】

- ・台風襲来や災害等に対する耐災害性の視点も必要。(25件)

【フィーダー交通ネットワーク】

- ・家から駅へのアクセス等、公共交通ネットワーク構築の視点が重要。(98件)
- ・全地域をカバーしているか、利便性の観点が重要。(25件)
- ・基幹軸だけでなく、フィーダー交通もセットで評価を行う必要がある。(1件) (関係機関等意見交換会意見)

3-4 幅広い視点で評価すべき

- ・全て（提示している）の視点が重要。(177件)
- ・複数の視点が重要。(607件)
- ・移動利便性（通勤・通学圏の拡大、速達性、渋滞緩和）の視点が重要。(196件)
- ・県民生活（安全・安心、健康増進等）の視点が重要。(117件)
- ・地域活性化（定住化促進、地域間交流、地域産業の活性化）の視点が重要。(43件)
- ・観光振興（観光客の移動利便性、移動圏域の拡大）の視点が重要。(20件)
- ・まちづくり（コンパクトなまちづくり、駅周辺のまちづくり）の視点が重要。(24件)
- ・地球環境（CO2削減）の視点が重要。(15件)

4 ステップ3以降の計画内容について

4-1 起終点に関する意見

- ・那覇一名護間への整備を求める意見。(84件)
- ・特定の地域までの整備を求める意見。(19件)
- ・那覇以南、名護以北への整備を求める意見。
(198件)・・・等

4-2 ルートに関する意見

- ・沖縄本島を網羅するルートを求める意見。(51件)
- ・本島の東側を通るルートを求める意見。(28件)
- ・本島の西側を通るルートを求める意見。(46件)
- ・複数(東側、西側、環状線等)のルートを求める意見。
(74件)
- ・観光・車窓からの景観の観点から海岸線ルートを求める
意見。(16件)・・・等

4-3 導入するシステムに関する意見

- ・路面電車(LRT)の導入を求める意見。(131件)
- ・モノレールの導入、延伸を求める意見。(119件)
- ・鉄道・リニア・新幹線などを導入してほしいとする意見。
(87件)
- ・バス・BRTで良いとする意見。(29件)・・・等

4-4 その他

- ・特定の場所への駅整備を求める意見。(32件)
- ・多くの人が利用しやすい場所への駅整備を求める
意見。(15件)
- ・民間の活力を活用して、整備・運営してほしいと
する意見。(13件)
- ・できる所から、又は一部の地域から先行して整備
してほしいとする意見。(15件)
- ・既存道路の活用を求める意見。(24件)
- ・新たな用地の取得が課題とする意見。(20件)
- ・高架、又は地下構造での整備を求める意見。(43件)
- ・市議地の整備や活性化を同時に進めてほしいとす
る意見。(19件)・・・等

5 プロセスの進め方について

5-1 基本方針

透明性、客観性等を確保しながら、慎重にかつスピード感をもって検討を進めてほしい。

- ・ 鉄道整備の検討を始めるのが遅いのではないか。(31件)
- ・ 鉄軌道は、他の施策より優先度が低いのではないか。他の施策を優先してほしい。(4件)
- ・ 慎重に検討を進めてほしい。(21件)
- ・ 検討プロセス全体を通じて、透明性、合理性、客観性、公平性の確保に努めてほしい。(6件)
- ・ 鉄軌道の導入ありきで検討しないでほしい。(9件)
- ・ 数十年先の長期を見据えた計画を検討してほしい。(10件)
- ・ 検討のスピードを上げてほしい。(16件) . . . 等

5-2 検討の進め方

メリットだけでなく、デメリットも含め幅広く検討してほしい。

- ・ 県民として検討に協力していきたい。(9件)
- ・ 外国含め先進事例を参照しながら検討を進めてほしい。(22件)
- ・ あらゆる可能性を視野に入れて、整備案を幅広く検討してほしい。(23件)
- ・ デメリットも含めた検討が必要だ。(10件)
- ・ 誰のための鉄軌道なのか対象者を明確にしたほうが良い。(5件) . . . 等

5-3 コミュニケーション

今後も様々なコミュニケーションを工夫し、わかりやすい情報提供、県民の多様な意見を把握しながら検討を進めてほしい。

- ・多くの人に知ってもらう工夫が必要である。(57件)
- ・公共交通を利用したい、利用すべきと思った。(14件)
- ・沖縄鉄軌道ニュースの内容がわかりづらく、理解できなかった。(59件)
- ・計画の具体的な内容や試算結果について知りたい。(50件)
- ・短中長期の取組により、どのように生活が変化するのかを示してほしい。(30件)
- ・県内の専門家や青少年、子育て世代など幅広い年齢・属性の住民から意見を聞いてもらいたい。(44件)
- ・幅広い県民の多様な意見を聞き取れるよう、様々なツール（手段）を使って意見を言えるようにしてほしい。(12件)
- ・多くの県民の意見を反映しながら、検討を進めてほしい。(4件) . . . 等

5-4 検討体制

広く市町村、県民等との対話の場づくりに努め、幅広く意見を聴いて検討を進めてほしい。

- ・広く市町村やその市民との協議の上でプロジェクトを進めてほしい。(12件)
- ・検討の場には、鉄道会社等、民間から専門知識を持ったメンバーを加えてほしい。(8件)
- ・フィーダー交通については、市町村も巻き込んで検討を行うべき。(1件)(関係機関等意見交換会意見) . . . 等